



第14回ハンディキャップ競技九州大会

競技報告 (2016/10.26)

写真と記事 : M. Kikutake

男女ともに地元熊本勢が初優勝

男子はN65 で興津信次 (不知火)

女子はN68 の栗田理那 (あつまるレーク)

第14回ハンディキャップ競技(Hdcp)九州大会は10月26日、熊本県益城町の高遊原カントリークラブ(男子6502ヤ、女子5837ヤ、パー72)で行われ、男子はベストスコアのグロス(G)72で回った53歳の興津信次(不知火)がネットで7アンダー、65をマークして、女子は26歳の栗田理那(あつまるレーク)がG79、N68とともに初出場で初優勝を飾った。

JGA杯J-sys選手権の予選を兼ねるもので、選手各自が持つJGAハンディキャップインデックスを基に開催コースのスロープレーティングによるコースハンディキャップを算出、適用。

昨年までは男女とも、ハンディキャップをA、B2クラスに細分化して実施していたが、JGAの試合規定の改定で男女ともに一本化して競技が行われた。

この日の熊本地方(益城町)は曇り、微風の好コンディション(気温22.9度、西南西の風2.3m/s=正午現在)。男女とも、ネットスコアが同数になる競り合った優勝争いになった。

男子は89人が出場(欠場2人)。そんな中で、興津はインスタートの前半2バーディーとし、後半はボギーが重なって結局は3バーディー、3ボギーの72で回り、H7のN65とした。河合俊幸(阿蘇大津、49歳)がG76、H11で同スコアのN65としたものの、規定によるマッチングスコアカード方式での選抜の結果、興津の優勝となった。

3位はG74、H7、N67の神原武男(周防灘、75歳)で、4位はN67で西山修二(チサン御船、62歳=G75、H8)が並んだが、マッチングスコアカードで順位が決まった。

26人が出場した女子は栗田と、G80、H12の田倉美月子(肥後サンバレー、62歳)がN68で並んだが、マッチングスコアカードで栗田が優勝、田倉2位となった。3位はG84、H14、N70で森山文(肥後サンバレー、48歳)、



4、5位もN72で2人が同スコアとなったが、4位赤星敬子（高遊原、70歳＝G82、H10）、5位溝口三重子（くまもと阿蘇、50歳＝G78、H6）の順となった。

男女各上位8人が全国大会出場権を獲得

熊本勢が大健闘

この試合の結果、この試合の結果、11月29日に千葉県、我孫子GCで行われる第7回JGA杯J-sys選手権（JGAアンダーハンディキャップ競技）へは男女とも各上位8人が出場権を得た。

この大会では、女子の8人中6人、男子も半数の4人が熊本勢で占められており、地元勢の健闘が光った。

また、男子の参加最高齢は76歳の鍋井健三（小郡）でG89、H9、N80で75位。女子は75歳の森川麗子（チェリー宇土）でG85、H9、N76の14位だった。



男子上位8人＝前列左から神原武男、西山修二、興津信次、河合俊幸、後列左から本田博文、黒鳥慎一、川口圭典、永元裕久の各選手



女子上位8人＝前列左から森山文、栗田理那、田倉美月子、溝口三重子、後列左から植津恵子、牛島由美子、平田雪恵、赤星敬子の各選手



「リズムよく回れた」 興津信次

インスタートの11番（パー4）でピン横からの1筋のスライスラインをねじ込んで、バーディーと幸先良いスタート。18番（パー5）でも2筋に2オンし、イーグルはならなかったものの、楽々バーディー。折り返しての1番（パー4）でも1つスコアを伸ばしたあと、終盤はボギーが3つと、結局は自己ベストを1打更新するイーブンパーの72でホールアウトした。

「緊張することもなく、普段通りのゴルフができたと思う」と興津。今年の九州ミッドアマの県予選で予選落ち。そこで一念発起、この大会に初挑戦した。10日ほど前には、ドライバヘッドを小ぶりなものに取り換えて、ラウンドで使用するのは2度目。それがフェアウエーを外すことも少なく、「しっくりいった」と言う。

ゴルフ歴は20代からでキャリアは30年ほど。「九アマにも挑戦してきたが、鳴かず飛ばずで」と笑うが、九州を制して出場する全国大会では、「今日の調子だったら、ドライバーが武器になる。頑張ってきます」と笑顔を見せた。

「スイングの修正で好結果」 栗田理那

一方の女子は、「前半は曲がっていたドライバーショットが、後半はよくなった」と栗田。ボギーの山（5ボギー、1ダブルボギー）を築いた前半とは違って、後半は2バーディー、2ボギーとまとめた。「スイングの時、体が突っ込む癖があって、それを修正できたのが良かった」そうだ。

熊本市の出身で、ゴルフ歴は16年になる。東海大九州ではゴルフ部に所属していたが、「あまり熱心ではなくて、社会人になってから一生懸命にやるようになった」という。今年の所属倶楽部の女子選手権では2連覇を達成。今大会は、県の女子研修会の仲間から「出てみたら」と勧められて初めて出場したという。

それが、思いがけない優勝となり、初めての全国大会の目標を聞くと、「とりあえずは頑張ってきます」と照れたように答えてくれた。